

令和5年度 京都市図書館 読書週間記念事業

司書のイチオシ

文化とかけて、京と解く

文化庁京都移転という記念すべき年に、京のまちで見つけた“推し”文化に
まつわる本を42人の京都市図書館司書がご紹介！
身近な生活の中にある文化を読書で体験しませんか。

※「司書のイチオシ」は読書週間の特別企画として、毎年開催しています。
これまでに紹介した本は、京都市図書館ホームページでご覧いただけます。

京都市図書館 司書のイチオシ



そのころは…



(令和5年10月作成)



1 平安貴族嫉妬と寵愛の作法

雅で熾烈な平安貴族の暮し でしょう。

約400年もの長きにわたった平安時代。そこで花開いた貴族による国風文化は、現代の私達にも強い印象を与えています。

美しい色の着物を重ね着て、和歌を詠んだり物語を編んだり、穢れや災いを退けようと祈ったりおまじないをしたり。

そんな雅でファンタジックな貴族の作法を、イラストを交えて実際はこうだったという裏側まで解説しています。



繁田 信一 / 監修
G.B. 2020年
(分類: 210.36)

(コミュニティプラザ深草図書館司書)



4 エレガントな毒の吐き方 脳科学と京都人に学ぶ「言いにくいことを賢く伝える」技術

イケズは巧みなおもてなしの技 でしょう。

京都から越してきた友人は、どんな人とも上手く付き合っていた。府外で育った私は、時々その対応に違和感を覚える事があった。本書を読んで、その謎が解けた。

京都人は一見相手に分からないような言い回しで自分の気持ちを伝えるのだという。そうやって相手との関係を絶つことを防ぎ、身を守るのだそうだ。その技を友人は幼少期に習得していたのだ。

私はイケズを怖いと思っていたが、そこには相手を思いやる心もあるようだ。



中野 信子 / 著
日経 BP 2023年
(分類: 361.454)

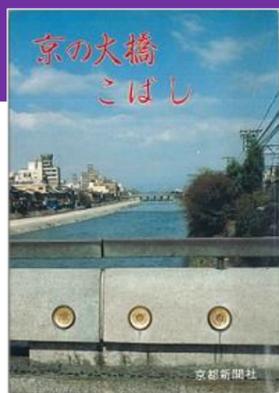
(西京図書館司書)



2 京の大橋こぼし

伝説につながる橋が多い でしょう。

古くから都であった京都には伝説が多く、橋とて例外ではありません。小野小町が化粧水に使ったと言われる天田川に架かる化粧橋。弁慶と義経が決闘した松原橋(元五条橋)。源頼光が鬼と出会った一条戻り橋などなど。この本では50の橋とその橋にまつわる伝説や逸話を紹介しています。毎日通勤や通学で渡る橋が、千年前の伝説につながっている。そんなことも京都人の誇りになっている気がします。



京都新聞社 / 編著
京都新聞社 1982年
(分類: 291.62)

(左京図書館司書)



5 ウスビ・サコの「まだ、空気読めません」

実は不思議なことが多すぎる!? でしょう。

西アフリカのマリ共和国出身、京都精華大学学長で京都に所縁の深いウスビ・サコ氏が独特の日本文化に戸惑ったり失敗したりした体験談の数々と本音のツッコミ(「日本はスリッパが多すぎる!」とか)が面白いです。当たり前と思っていた日本の習慣やしきたりに対して、「海外の人はそこを不思議に思うのか」と驚かされます。海外からの観光客が多数訪れる観光都市・京都に住む人間として、読んでおきたい一冊です。



ウスビ・サコ / 著
世界思想社 2021年
(分類: 361.5)

(下京図書館司書)



3 京都の壁

どちらもロマンがある でしょう。

古今にわたって、内外から人はなぜ京都に集まるのか。世界遺産を筆頭に広く知られた寺院があり、三大祭に代表される歳時があり、加えて美味しいものがたくさんある。だが、決してそれだけで京都を目指すものではない。目に見えず、耳にも聞こえないが、肌で感じ取るからこそ多くの人々が京都に集う。そんな京都の魅力を様々な角度から、紐解いていく。なるほど、京都の本質とはと思える本に出会いました。



養老 孟司 / 著
PHP 研究所 2017年
(分類: 291.62)

(山科図書館司書)



6 美しい和菓子の図鑑

甘い歴史がある でしょう。

京都と言えば和菓子! 今では和菓子屋さんからスーパーまであちらこちらで売られている、意外と身近な存在です。

でも、和菓子に意味や季節があるのはご存じですか? 厄除けや願掛け、奉納など、実に様々です。また、美味しいだけではなく目で見て楽しいのも魅力の一つ。

この図鑑ではカラフルなイラストと和菓子の由来や豆知識が沢山載っているので、読めば食べたくなること間違いなし!

お気に入りの一品を見つけてみませんか?



青木 直己 / 監修
二見書房 2021年
(分類: 383.81)

(久我のり図書館司書)

7 史料でみる和菓子とくらし

甘く美しい和菓子 でしょう。

京都の和菓子は京菓子ともいわれ、洗練された姿と味は日本を代表する大切な要素です。上生菓子だけでなく庶民のお菓子まで、また、流通や宣伝を含めた楽しみ方まで、この本は和菓子の歴史と広がり写真を写真や史料でわかりやすく伝えてくれます。飴細工がみるみるうちに出来上がる感動や金平糖のかわいい色と形、季節のお菓子など、心ときめく思い出をお持ちではないでしょうか。和菓子は私達の日々に寄り添ってくれています。



今村 規子／著
淡交社 2022年
(分類：383.81)

(こどもみらい館子育て図書館司書)

10 京都の食文化 歴史と風土がはぐくんだ「美味しい街」

食い倒れもアリ！ でしょう。

私達の身体をつくる、最も身近な文化である「食」。京都にいと、折々でその食文化を学ぶ機会がありますが、恥ずかしながら時と共により覚えになっていました。そんな京都の食文化をまるっとおさらいできる本書。京都は着倒れ？いやいや、食い倒れもできる美味しい街やで！と再認識。そしてそんな美味しい街は、京都の「食」を守ろうとする人々によって支えられています。京都に縁のあるあなたに、是非読んで頂きたい一冊です。



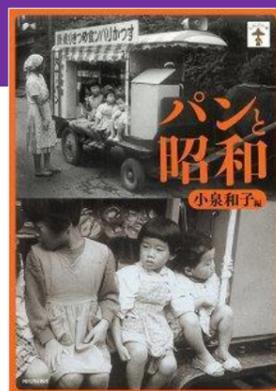
佐藤 洋一郎／著
中央公論新社(中公新書) 2022年
(分類：383.8162)

(醍醐図書館司書)

8 パンと昭和

パン屋の激戦区 でしょう。

「京の食文化は和食」という印象が強いですが、実はパン屋の激戦区と言われているのです。パン屋が建ち並ぶ京都で生まれ育った私は、この紹介を機に大好きなパンの歴史が知りたくて本書を選びました。パンは昭和初期には富裕層しか食べることができなかったなど、今では信じられないような事実が多く書かれています。現在当たり前のようにパン屋が存在していることが、とてもありがたいことなのだ実感できる一冊です。



小泉 和子／編
河出書房新社 2017年
(分類：383.81)

(醍醐中央図書館司書)

11 しょうき 鍾馗さんを探せ!! 京都の屋根のちいさな守り神

鍾馗さん でしょう。

京都で見かける、屋根の上に祀られている瓦製の守り神、「鍾馗さん」。屈強な姿やとぼけ顔、金ぴかの容姿などその種類は様々です。そんな鍾馗さんに魅せられた著者が、有名社寺や京都グルメには目もくれず、ひたすら歩き探し求めて発見した熱い思いの詰まった一冊です。年々減少する町家とともに鍾馗さんの姿も消えつつありますが、まだまだ健在！お気に入りの鍾馗さんを探しに京都の町を歩いてみませんか？



小沢 正樹／著
淡交社 2012年
(分類：387)

(コミュニティプラザ深草図書館司書)

9 ラーメンの歴史学 ホットな国民食からクールな世界食へ

実はラーメン街道 でしょう。

生まれ育った京都の食文化、とりわけ京都が誇る一大食文化であるラーメンに興味を持った。外国人が書いたラーメンのガイドブックはよく見受けられるが、この本のような本格的な研究書は少ない。著者が英語指導助手として働いていた時に食べたラーメンの味に感動した経験を基に、ラーメンの成立から世界中で国民食になった経緯まで詳細に書かれている。ラーメンへの情熱が感じられる珠玉の一冊である。



バラク・クシュナー／著
幾島 幸子／訳
明石書店 2018年
(分類：383.81)

(醍醐中央図書館司書)

12 京の水案内

発展の裏に水の存在あり でしょう。

文化は人々の生活の過程で生まれるものであり、その生活に必要な不可欠なのが水です。水は祭りや酒、納涼床など、京都の文化の多くと密接に絡み合っています。また、琵琶湖疏水事業は、近代以降の京都の発展にも大きく貢献しました。私が育った地域にも、水で有名な神社や井戸、酒蔵があり、水にかかわる文化は身近な存在でした。そんな京都のさまざまな水の名所や名水に触れてみませんか？



カッパ研究会／編
京都新聞出版センター 2013年
(分類：452.9)

(左京図書館司書)



13 日本の花を愛おしむ 令和の四季の楽しみ方

花が彩り、華がある でしょう。

花は美しいですが儂いモノ…。四季の変化が豊かな日本では、その儂さが愛でられてきました。時には華道といった主役に、また時には俳句の季語など、華麗に咲き誇る花が日本文化に彩りを添えてくれます。京都では、季節ごとに咲く花が各寺社などで人々を魅了し、中でも八坂神社や嵐山の春の桜の美しさには、毎年心が洗われます。そんな日本文化や京都を華やかに彩る花の姿と、私たちとの身近な関わりについて紹介した一冊です。



田中 修/著、朝生 ゆりこ/絵
中央公論新社 2020年
(分類：470.4)

(醍醐図書館司書)



14 フンコロガシ先生の京都昆虫記

自然環境ムシできない でしょう。

地球上で最も種類の多い生物群であると同時に、花鳥風月に趣を加え、各地の歳時記に登場する昆虫たち。京洛の昆虫との出会いを通して彼らとの共生を考えます。

府登録天然記念物であるギフチョウなど希少な昆虫たちの生態とともに描かれるのは、自然と人との関わりです。例えば、西山のカタクリの花の盗掘、御苑のナラ枯れと一筋縄にはいかないことばかり。

ぜひ、身近な自然環境について考えるきっかけにしてください。



塚本 圭一/著
青土社 2014年
(分類：486.04)

(岩倉図書館司書)



15 神戸・大阪・京都レトロ建築さんぽ

素敵な洋館に出会える でしょう。

京都の街には伝統的な日本家屋や神社仏閣のイメージがありますが、魅力的な西洋建築も数多くあります。この本では、明治・大正・昭和に建てられた西洋建築が美しい写真とともに紹介されています。私の母校が赤レンガの校舎だったこともあり、同じような建築を見つけ懐かしい気持ちになりました。お気に入りの建築にきっと出会える一冊です。



倉方 俊輔/著、下村 しのぶ/写真
エクスナレッジ 2019年
(分類：523.16)

(右京中央図書館司書)



16 京都レトロモダン建物めぐり

街に溶け込むレトロモダン でしょう。

明治や大正に建てられ、今も親しまれる洋館が京都には数多くあります。目を引く大きな建物から、静かに佇む喫茶店まで、どれも不思議と京都の街に馴染んでいます。地図や建物の見どころ紹介のほか、窓や小さな装飾を切り取った写真も可愛らしい一冊です。

本書で今まで知らなかった場所を見つけ、近くを訪れたときに寄り道して、写真を撮るのが楽しみになりました。この秋は「レトロモダン」な京都を見つけてみませんか。



片岡 れいこ/著
メイツ出版 2021年
(分類：523.162)

(東山図書館司書)



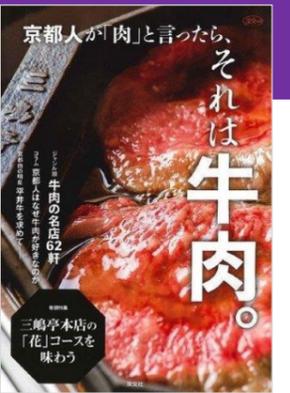
17 京都人が「肉」と言ったら、それは牛肉。 ジャンル別牛肉の名店62軒

お肉大好き！牛肉文化が根付く街 でしょう。

京都市が「牛肉」への支出金額日本一の街であることはご存じでしょうか。(総務省『家計調査』2020年(令和2年)～2022年(令和4年)平均より)

幼い頃、おめかしして両親に連れて行ってもらったおいしいすき焼きの名店、仕事の打上げで職場の仲間と行った焼肉屋さん、誕生日に友人からごちそうになったステーキハウス。

「ハレ」の日の幸せな記憶と共に、京都に牛肉を大切にする文化があることを誇りに思います。



淡交社編集部/編
淡交社 2020年
(分類：596.33)

(久世ふれあいセンター図書館司書)



18 京都パンで巡るおいしい古民家

実はパンの都 でしょう。

京都は伝統的で古いものを大切にする一方で、新しいことも大好きです。有名な京料理のお店がたくさんありますが、実は美味しいパン屋さんもとても多いのです。この本には京都の風情あふれる京町家や古民家で営む美味しいパン屋さんが多数登場します。どのページを開けても、焼き立てパンの香ばしい香りが漂ってくるようです。さあこの本を読んで、美味しいパンと京都らしい風情を探しに出かけてみませんか？



片岡 れいこ/著
メイツ出版 2023年
(分類：596.63)

(こどもみらい館子育て図書館司書)



19 あんこの本 何度でも食べたい。

“あん”の宝庫 でしょう。

身近なおやつから極上の菓子まで、日本中に広がるあんこ文化。最初の出会いは子供の頃、父が作ってくれた素朴な羊羹でした。

京都には、町の人々と歴史に支えられたとびきりのあんこのお店があります。著者が目と耳と舌で取材した、京都や日本各地のあんこたちを紹介するこの本。食感が想像できそうなくらい（ホントです！）質感たっぷりの写真、お店の方の人柄と作ることへの想いが感じられる言葉。どうぞ味わってみてください。

※2018年、文藝春秋から加筆修正版が発行。2010年版に紹介者が惹かれた写真あり。



姜 尚美/著
京阪神エルマガジン社 2010年
(分類：596.65)

(移動図書館司書)



20 あんこの本 何度でも食べたい。

奥が深い でしょう。

京都には和菓子屋さんがたくさんあります。あんこの炊き方にもその家の秘伝があります。羊羹やったら〇〇、最中やったら△△とお気に入りのお店が言える人が多いです。お茶席などで出される上生菓子は職人の美意識や四季の彩が映える芸術品です。この本ではあんこが苦手だった作者があんこに魅入られ、どこまでもその魅力を追い続けた話が載っています。あんこの奥深さを味わってください。



姜 尚美/著
文藝春秋(文春文庫) 2018年
(分類：596.65)

(北図書館司書)



21 イノダアキオさんの
コーヒーがおいしい理由

極めたものには理由がある でしょう。

著者の猪田彰郎さんは『イノダコーヒー三条店』の初代店長。27年間ひたすら働き、コーヒー筋の人生を歩んでこられました。愛され続ける店を作ろうと試行錯誤する中での、ご縁のつなぎ方、コーヒーの淹れ方等を通し、培った経験や学んだこと、大切にしていることなどを紹介しています。1つのことを極めた人の話には、心に響く言葉が多くありました。人生で迷った時、働き方や生き方を考える時に、おすすめしたい一冊です。



猪田 彰郎/語り
アノニマ・スタジオ 2018年
(分類：596.7)

(移動図書館司書)



22 純喫茶とあまいもの 京都編
これからも通いたい30の名店

今も昔もそこにある でしょう。

学生時代によく行った場所といえば喫茶店が思い浮かびますが、どの店に一番行ったかと言われると、なかなか答えられません。程近い距離にありながらも店それぞれに個性や特色がある京都の喫茶店は、店の数だけ「文化」があるように思えてきます。この本では、京の土地で古くから愛されている純喫茶の数々が紹介されています。看板メニューのほか、それぞれの歴史・店主ごとの美学など、味わい深いエピソードも楽しめる一冊です。



難波 里奈/著
誠文堂新光社 2020年
(分類：596.7)

(向島図書館司書)



23 宇治茶の郷のたからもの
茶の木人形と永谷家の製茶機械

育てて摘んで飲んで作るのが魅力 でしょう。

茶の木人形を知っていますか？お茶の木を材料に、一刀彫で色づけされた小さな人形です。茶摘み姿の女性を題材にしたものが多いですが、それ以外にも味わい深い表情をした人形がたくさんあります。古いものでも、鮮やかな色が保たれたまま残っています。江戸時代に作られ始め、宇治のお土産として人気となり、大名や皇室にも愛されたそうです。京都（府）には、まだまだ知り尽くせない魅力がいっぱいあるんですね。



京都府立山城郷土資料館/編
京都府立山城郷土資料館 2013年
(分類：619.8)

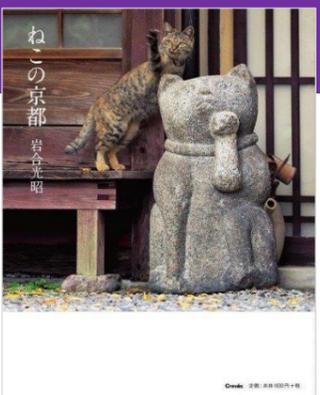
(洛西図書館司書)



24 ねこの京都

京都で猫もいき（っ）てます。

お馴染み動物写真家、特に猫写真家として有名な岩合さんが、京都で生きる猫を写した写真集です。ここにいる猫は、はんなり生きながら、でもいきて（調子にのって）いるのでは…、という個人的な見解をキャッチコピーにしてみました。猫を通して京都を見るという難しいことは置いて、ただただ、猫たちに癒されてください。



岩合 光昭/著
クレヴィス 2017年
(分類：645.7)

(向島図書館司書)

25

京都喫茶店クロニクル 古都に薫るコーヒーの系譜

喫茶の歴史も奥深い！ でしょう。

美味しいコーヒーがチェーン店やコンビニでも飲めるこの頃。けれど京都には「老舗」と呼ばれる喫茶店も多く存在します。学生時代に緊張しながら初めて入店してみたこと、お店の雰囲気すべてを味わうことが楽しくて、友人と巡ったことを思い出しました。茶店からカフェー、喫茶店、カフェブームを経てコーヒー専門店まで、京都の喫茶文化をたどりながら、読後はきつと気になるお店へ足を運んでみたくなる一冊です。



田中 慶一／著
淡交社 2021年
(分類：673.98)

(中央図書館司書)

28

市電の走る風景

セピア色の写真 でしょう。

市電の写真がメインですが、風景や人物などの背景が、否が応にも目に留まります。市電の車内、車道と線路の間に造られたホーム。現在もそこにある建物、姿を消した会社…。祇園祭や大文字をバックに堂々と走り抜ける車体。市電といえば、亡き祖母が、息子と見た車窓からの眺めを思い出し、話していた姿がよみがえります。見る人それぞれの生活に根差した、歴史のつまった一冊ではないでしょうか。



品川 文男／写真・文
淡交社 2012年
(分類：686.9162)

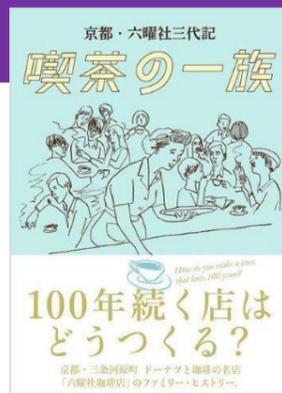
(東山図書館司書)

26

喫茶の一族 京都・六曜社三代記

趣深い でしょう。

六曜社珈琲店は、河原町通に面しているレトロな雰囲気のお店。終戦間もない頃の満州、当時日本人にとって四面楚歌だった地で、店主の實が堂々と日本語の看板を掲げ、大胆不敵に屋台営業をしていたことから始まります。終戦後の京都の空気感やその土地で喫茶店を存続させていくための苦労、それから個性あふれる奥野一家の話。歴史とともに、京都に今なお存続している喫茶店文化について思いを馳せることができる一冊です。



京阪神エルマガジン社 2020年
(分類：673.98)

(北図書館司書)

29

京都で町家旅館はじめました

ええとこ・ええもんにはずれなし でしょう。

伝統産業や観光スポット、グルメなど「ええとこ」「ええもん」がいっぱいの京都…。“推し”たい文化がありすぎて1つに絞れないと思っていたときに会ったのがこの一冊。ひよんなことから町屋旅館のマネージャーになった女性の奮闘記です。伝統文化から食文化、観光名所までこの1冊で楽しめます。旅行ライターでもある著者のおすすめグルメやスポットはどれもはずれなし。京都の魅力を一気に感じられるよければりな一冊です。



山田 静／著
双葉社 2019年
(分類：689.8)

(岩倉図書館司書)

27

汽笛一声 京都鉄道博物館

鉄道の聖地 でしょう。

京都駅 12時38分、トワイライトエクスプレスで北海道へ新婚旅行に行く私を、仕事を抜け出して見送りに来てくれた母。嬉しさと、少しの寂しさを感じたのを今でも覚えています。現在その豪華寝台特急列車は運行を終え、京都鉄道博物館に保存展示されています。この本は、鉄道博物館の学芸員が、蒸気機関車や旧二条駅舎の移築の様子など、鉄道の歴史や文化とともに博物館の魅力を紹介したものです。鉄子オススめの一冊です。



京都鉄道博物館／編
京都新聞出版センター 2018年
(分類：686.06)

(南図書館司書)

30

色彩巡礼 京都の古社寺

振興（信仰）が大切 でしょう。

章は色で分かれており、第1章「赤」に伏見稻荷の千本鳥居が登場。朱赤がとても美しい。著者の吉岡氏は「染司よしおか」五代目当主であり、染師・染織史家でもあるため、色の歴史なども詳しく書かれている。写真もどれも美しく、眺めるだけでも楽しい一冊。第4章「緑」の瓦は、東寺の旧境内から出土した緑釉瓦で、大極殿などにしか使われなかったが、一千年近く土の中にあったとは思えない美しい緑で、京都の歴史を感じた。



吉岡 幸雄／著、中田 昭／写真
淡交社 2013年
(分類：702.17)

(伏見中央図書館司書)

31

京都のちいさな美術館めぐり

京都ならではの美術館 でしょう。

マンガの収集・保存・展示をおこなう京都国際マンガミュージアムや、日本画家の邸宅「白沙村荘」内にある橋本関雪記念館、京友禅の老舗「千總」の千總ギャラリーなど、京都ならではの文化を紹介する、特色ある美術館がたくさん載っています！

皆さんもこの本に紹介されている京都の美術館を訪ねて、お気に入りの館を探してみませんか？



岡山 拓／著、浦島 茂世／著
G.B. 2015年
(分類：706.9)

(西京図書館司書)

34

京都名筆散歩 古都で「書」にひたる

京都は書の美術館 でしょう。

京都の寺院や美術館・博物館には書の名品が数多くあります。書の作品の楽しみ方は難しく考えがちですが、例えば碑や額に注目してみると、漢字の伝来によって中国に倣った書風、日本独自の仮名など様々な書体で書かれていることに気が付きます。字を書く機会が少なくなった今、この本を片手に寺院巡りや京都を散策しながら能書家や僧侶たちが残した作品に触れていただき、書に関心を持つきっかけになればと思います。



中村 史朗／著
淡交社 2020年
(分類：728.21)

(吉祥院図書館司書)

32

色から読み解く日本画

名画に残る風景に出会える でしょう。

京都の大晦日を描いた東山魁夷の「年暮る」という作品に出合ったのは東京の山種美術館でした。一目で京都の底冷えした空気の鋭さや静まり返る大晦日の夜が蘇り、作品が放つ魅力に圧倒されました。

本書は「年暮る」ほか「色」が印象的な日本画に焦点を当て、その画家や作品の制作背景を解説しています。日本画って難しそう…という苦手意識も気にせず楽しめるのではないのでしょうか。ぜひ推しの作家や作品を見つけてください！



三戸 信恵／著
山種美術館／特別協力
エクスタレッジ 2018年
(分類：721)

(下京図書館司書)

35

シネマの京都をたどる

日本映画発祥の地 でしょう。

私が推したい京都の文化といえば「映画」です。小学校の授業で、日本映画のはじまりの地が京都であることを知り、自分が住んでいるこの地にそんな歴史があったのかと驚いたことを覚えています。この本では京都と深い関わりがある役者のエピソードや、映画製作の裏話、映画人がよく訪れたお店などを紹介しています。掲載されている場所を訪れて、映画人の気分になってみてはいかがでしょうか。



蔵田 敏明／著
淡交社 2007年
(分類：778.21)

(中央図書館司書)

33

京都名筆散歩 古都で「書」にひたる

手で創る でしょう。

何気なく見てはいるけれど気づいていない、名筆と言われる数々の中国や日本の書が、京都のあちらこちらで見られるってご存じでしたか。例えば、伊藤博文や川端康成、太田垣連月の書芸術を、場所によってはただ鑑賞することができるって、素敵ですね。皆さんもこの本を片手に、芸術文化を鑑賞してみてください。



中村 史朗／著
淡交社 2020年
(分類：728.21)

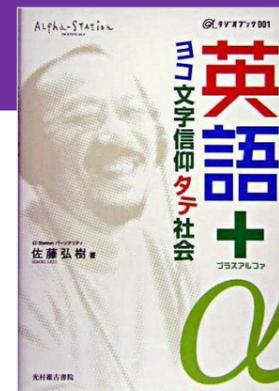
(久我のもり図書館司書)

36

英語+α ヨコ文字信仰タテ社会

毎朝10分間の異文化体験 でしょう。

長年、FM京都「α-station」の「朝の声」として親しまれた佐藤弘樹氏。英語講師でもあった彼の番組の名物コーナー「ワンポイント English」のエッセンスをぎゅっとまとめた本書は、外国語を学ぶうえで、母語を含めた言葉の背景にある文化を理解することが大切だと教えてくれます。中身のない「ペラペラ英語」ではなく、「日本語ができてこそ英語」で、観光都市・京都の魅力を発信してみませんか？



佐藤 弘樹／著
エフエム京都 2004年
(分類：830.4)

(久世ふれあいセンター図書館司書)

37

十角館の殺人 新装改訂版

偉大なミステリ作家の生まれた地 でしょう。

断崖絶壁の孤島に建つ「十角館」を推理小説研究会の七人が訪れた。正十角形の形をした奇妙な館で起こる連続殺人事件。一体だれが犯人なのか？

友人に「この感覚を共有したい！」と強く薦められて読んだところ、『ある一文』で度肝を抜かれました。たしかに、この衝撃、イチオシどころかゲキオシ（激推し）せずにはいられません！

京都で生まれた才能が放つ不朽の名作ミステリ。あなたもこの衝撃をぜひ体験してください。



綾辻 行人/[著]
講談社(講談社文庫) 2007年
(分類: 913.6)

(吉祥院図書館司書)

40

なんて素敵にジャパネスク

陰謀に巻き込まれる でしょう。

舞台は平安の都。内大臣の娘・瑠璃姫は、初恋を胸に親が強引にすすめる結婚から逃げ回っていた。そんな時、夜中にこっそり出かける弟を見かけてこっそり追いかけると、思わぬ人物に遭遇してしまい!?

春を寿ぐ歌に込められた本当の意味とは?和歌を読み解いて黒幕を暴け!! 読んだ後に和歌を見ると、裏の意味を探さずにはいられなくなります。



氷室 冴子/著
集英社(集英社文庫) 1984年
(分類: 913.6)

(山科図書館司書)

38

あきない世傳金と銀 [1] 源流篇

季節を楽しめる着物 でしょう。

学者の家に育ち、大坂天満の呉服屋、五鈴屋へ奉公に出された主人公の幸(さち)。幸は、家族との急な別れを少しずつ乗り越え、大変な女衆としての生活にもめげず、「知りたい!学びたい!」という気持ちに正直に、商いの道を探ります。

京都の着物文化に憧れて、呉服屋が舞台なので読み始めました。

幸が知恵を絞って、たくましく生きる姿に勇気をもらえます。主人公を取り巻く人々も魅力があふれています。



高田 郁/著
KADOKAWA 2016年
(分類: 913.6)

(右京中央図書館司書)

41

平家物語 日本文学全集 09

平家ゆかりの地めぐりが楽しい でしょう。

TV アニメをきっかけに私が夢中になったのは、古川日出男の疾走感あふれる完全訳『平家物語』。栄華を誇った一族が落ちていく「あはれ」なばかりのお話と思いきや、その中で、きらっと輝く人物やエピソードが描かれて、胸が熱くなります。やがて合戦は西へ西へと移っていきますが、最後のシーンは京の大原へと戻り、静かに幕。今まで見聞きしたことのある断片が大きな流れとなり立体的に動き出す、そんな読書体験ができますよ。



池澤 夏樹/個人編集
『平家物語』古川 日出男/訳
河出書房新社 2016年
(分類: 918)

(南図書館司書)

39

京都インクライン物語 京都百年の計。難工事琵琶湖疏水事業に挑んだ男たちの闘い

古都コト京に文明開化の音がする でしょう。

平安京遷都以来雅やかな文化が生まれ、千年以上もの間日本の中心として栄えていた京都が、東京遷都により衰退していく現状をくい止め、町に活気を取り戻すため幾度となく計画された琵琶湖疏水。実現に向けて集まった、北垣国道知事をはじめとする関係者の人々の情熱・苦難の連続であった出来事が本書には記されています。今年の、文化庁の京都移転の年に際して、歴史ある京都の文化継承の真意を改めて考える機会となった一冊です。



田村 喜子/著
山海堂 2002年
(分類: 913.6)

(伏見中央図書館司書)

42

琳派をめぐる三つの旅 宗達・光琳・抱一

京都が生んだ天才絵師は琳派の祖 でしょう。

《風神雷神図屏風》が三つあると知ったのは過去に京都国立博物館で開かれた展覧会に行ったときのことだった。誰もが知る俵屋宗達が描いた《風神雷神図屏風》。その約100年後に尾形光琳がそれを模写し、さらにその約100年後、酒井抱一が光琳の《風神雷神図屏風》を模写した。この三つの《風神雷神図屏風》を同時に観たときの感動が今も忘れられない。その画風は長い歳月が流れた今も「琳」の文字にふさわしく輝き続けている。



〔俵屋 宗達、尾形 光琳、酒井 抱一/画〕、神林 恒道/監修
泉谷 淑夫/文
博雅堂出版 2006年
(分類: E)

(洛西図書館司書)